

SEMINAR

・巻頭言「令和の宮教大」	1	令和3年度事業計画・予算	
宮城教育大学同窓会会長(学長) 村松 隆		・学生活動援助金サークル紹介	6
・特集「宮教大図書館の今を訪ねて」2,3		釜石 琉衣	6
前田 順一		鈴木 上総	6
大沼 忠弘		・今年度定年退職教員	7
「図書館にまつわるエピソード」4		川村 寿郎	7
高橋 聖	4	小島 雪子	7
佐藤 深雪	4	・事務局だより	8
・同窓会事業・会計・予算	5	・計 報	8
令和2年度庶務・会計報告		・編集後記	8

vol. 33

発行人：宮城教育大学同窓会
 仙台市青葉区荒巻字青葉149 会長 村松 隆
 令和4年3月25日発行 印刷：株式会社宮城友栄社

山にありて

題字・加藤豊仍名誉教授

令和の宮教大

宮城教育大学同窓会会長(学長) 村松 隆



皆様、こんにちは。

学長職を拝命致しました四年前、国立大学をめぐる厳しい状況に直面した私は、本学を持続可能で発展する大学とするため、教育体制の大胆な改革に着手し、教職員の皆様のご協力を得て何とか基盤を構築することができました。

今般、本年四月より再度学長の任にあたることとなりましたので、改革を何とか軌道に乗せるべく、力を尽くす所存でございます。

ハード面では、老朽化した青葉山建物群の改修工事を順次進めております。文科省提唱の「アクティブラーニング」(主体的・対話的で深い学び)に対応して、対話の

スポットや共用スペースを多く設けました。学生寮のリニューアルも計画しております。併せて通路の安全確保のため、地下鉄駅へ大学間にスクールバスを走らせております。全国的に大学の再編等が促される中、宮教大は教員養成の拠点大学として、さらに存在感を高めるべく努力致します。

さて、本学には真面目で素直な学生が多いのですが、その真面目さゆえか、教員になることに不安を抱き、悩む者が少なくありません。「教師はブラックな職業」というイメージが主たる理由のようです。どうか同窓生の皆様、本学の新卒者が近くにおります時は、何卒よろしくお導きください。よろしくお願いいたします。皆さんの同窓生、大先輩がおられるのだから、心配することはない。よくお教えを拝聴するように」と学生には伝えておりますので、ご多忙の中甚だ恐縮ではございますが、どうかお力をお貸しください。よろしくお願い申し上げます。

四年前、本誌で申し上げましたように、同窓会あつての宮教大でございます。どうぞ温かきご支援を切にお願い申し上げます。

特集 宮教大図書館の今を訪ねて

皆様は在学中どのくらい図書館を利用しましたか。今、大学図書館は大きく変貌を遂げています。様々なメディアから情報を得られる時代の中で、図書館は何を目指し、どのような変化を遂げていくのか。前田附属図書館長、大沼学術情報課長にインタビューしてきました。

	和書	洋書	合計
図書(冊)	331,564	51,004	382,568
視聴覚(点)	2,659		2,659
雑誌(種)	2,270	643	2,913

蔵書冊数(令和3年3月31日現在)

「宮教大附属図書館ならではの蔵書を教えてください。」

旧宮城師範学校時代の歴史的に貴重な資料も数多く所蔵されています。教科書は明治時代のもので、現代まで、継続して収集しています。また、大学図書館としては珍しく、児童書を数多く所蔵していることも特徴です。本学ゆかりの所蔵としては元学長林竹二氏の文庫もごさいます。

「多くの企画展示やイベントが行われています。印象に残っているものを教えてください。」

これまで、教科書展を十教科、十年にわたって展示してきました。二年前には企画展「学び続ける教師を育てる」と題して林竹二先生の展示を行いました。現在も一部を常設展として展示しています。林先生の「教授学」は、教員養成を学問として行う本学の祖であり、生涯にわたって学び続ける教師の姿を説いたものになっています。また、男女共同参画推進プロジェクトとの共催で図書展を毎年行っています。本学の書籍だけではな

く、国立女性教育会館からも資料をお借りし、合わせた形で展示を行っています。後期に「性・文化・ジェンダー」という講義がありま

す。その際、学生たちがレポートを書くのに使用しています。他の大学ではあまりない講義で、教員になったときにもジェンダーに関する知識は重要になってきます。学生たちからも非常に評価の高い授業で、それと合わせた展示になっています。その他、学生たちが展示を企画するスペースもあり、サークルや授業ごとに自由に展示を行うことができるようになっていきます。



常設展(林竹二先生)

「図書館として現在一番力を入れていることは何ですか。」

「学生が自分たちで主体的に学ぶ」ということを図書館でも支えるために、学生の「学修支援」に力を入れています。大学院生に学修サポーターとして図書館にいてもらい、卒論の書き方が分からない、調べ方が分からないなどの相談に乗ってもらっています。教授のアドバイスなども行っています。学生の立場で学生の支援を行う「ピアサポーター」という考えが本学にはしっかり根付いています。



院生が学修をサポート

教員に求められる学び方をサポートする活動は、支援される学生にとっても、サポートする学生にとってもためになっています。支援してもらったことを、次は自分が次の学生に支援していくというサイクルができています。毎年四〜五名がサポーターをしており、そのほとんどが教員になって現在活躍しています。

―一九六五年開設の附属図書館、時代による学生の利用の変化について感じていることはありますか。

実はあまり変わっていないのではないかと思っています。今、資料の電子化が進み、場合によってはほとんど図書館に來なくても済んでしまうような分野もあります。しかし、本学の場合は、教科書・指導書を借り、図書館の黒板のある「スパイラル・ラボ」というスペースに学生たちが集まり、模擬授業を行う姿が見られます。一人来て、資料を調べてレポートを書くという利用の仕方より、教科書や指導書を見ながら指導案を検討し合ったり、授業の進め方を批判し合ったりとかそういう利用の

仕方をしています。そうした利用の仕方は昔から変わっていないように思います。それが教員養成大学の特徴なのではないかと考えています。ホワイトボードより、黒板を使わせてほしいという意見が多いことも特徴です。図書館というと静かに本を閲覧するというイメージですが、一階は対話をしなから学び合うスペース、二階は静かに勉強するスペースに分けています。



模擬授業が行える「スパイラル・ラボ」

―これからの附属図書館がどう発展を遂げていくかとしているか、展望をお聞かせください。

『国立大学図書館協会ビジョン2025』の中に、目指す図書館像があります。三つの重点領域があり、①知の共有「蔵書を超えた〈知識や情報〉の共有」②知の創出「新たな知を紡ぐ〈場〉の提供」③知の媒介「知の交流を促す〈人材〉の構築」これを本学の目標に位置付けた形で進めていきます。国立大学八十六館が足並みをそろえて行います。色々なことがデジタルに移行していく中で、すべてデジタル化すればそれでお終いということではなく、図書館としては、書籍ということを中心にしながらも質の高い情報を提供していく必要があります。これまで以上に図書館の使命として、本を管理するだけではない、人の力でしかなしえないことを行っていく、学修支援などがまさにそうですね。

―同窓会会員へメッセージをお願いします。

現在「古本募金」のホームページ

ジを作成しています。古本募金とは、古本を五冊以上ご提供いただける方の自宅などに業者のトラックが回収に赴いて査定し、その査定額が本学に振り込まれるという仕組みです。読み終わった本をお金に換えて、学生のための図書館支援に充てていくという事業です。同窓会の皆様にも広く知っていたらいて、新しい本を買ったり、学修支援の機器を買ったりなどさせていきたいと思います。図書館のみで使用する予算になります。本学の萩朋会館と図書館にも回収ボックスを設置する予定です。在校生のためによりしくお願いいたします。

インタビューにご協力いただきました

◆前田 順一 氏

(理事(総務担当)・副学長)

情報活用能力育成機構長

附属図書館長)

◆大沼 忠弘 氏

(学術情報課 課長)

副機構長)

古本募金(2022年4月開始予定)

<http://library.miyakyo-u.ac.jp/>

※準備が整い次第、図書館HPでお知らせします。



学修サポーター活動を通して



大学院教育学研究科
教科教育専攻
社会科教育専修

高橋 聖



早いもので、私が図書館でアルバイトをして三年が経ちます。この大学には六年在籍したので、その半分の期間を図書館で過ごしたと思うと、時の過ぎ去るスピードに呆然とするばかりです。図書館の学修サポーターを通して、塾のアルバイトをしていた頃に教えていた生徒に再び関わられたこと、卒論が切羽詰まり、一緒に切り抜ける方法を考えた学生から、後で長文の感謝のメッセージをいただいたことなどは、望外の喜びです。

私が勤務を始めた二〇二〇年度の春は大学の講義が全面的にオンラインで行われており、まずは在宅で仕事をすることになりました。大学の図書館に来なくても学生の皆さんがサポートを受けられるように、学修サポーターのポータルサイトを新設したり、チャットを用いてサポーターに相談できる仕組みを試行錯誤しながら設けたりしました。

二〇二一年度になるとサポーターが私しかいない時期が二ヶ月ほど続き、一週間のあいだに五日勤務することもありました。大変なこともありましたが、前年よりもありました。前年度とは比較にならないほど多くの新入生と関わることで、でき本当に楽しかったです。

時代が移ろいでも、助けを必要とする学生は必ずいらっしやいます。この「学修サポーター」という制度がいつまでも続いてほしいと切に願います。

図書館にまつわる エピソード



「本のある場所」が好き



小学校教員養成課程
特殊教育ピーク
昭和55年度卒

佐藤 深雪



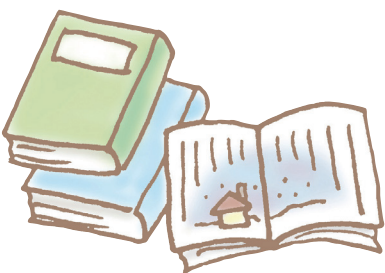
「あの時は、宮教大の図書館にいたのよね。司書のお姉さんと一緒に貸し出しカウンターにしがみついた。」一九七八年六月十二日十七時十四分、宮城県沖地震である。当時、図書館の常連だったわけではなく、居場所をもつぱらグラウンド脇の体育会サークル棟の一室だった。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災。私は仙台市立小学校の教頭だった。保護者の迎えを待っていた最後の子どもを、二十三時過ぎに引き渡したのも図書室だった。懐中電灯の灯りの下、震える声で絵本を読み聞かせる若い先生の姿があった。

この原稿依頼を機に巡り合った一冊の本がある。「大震災 あの時」の図書館員たち「東北三県の公共・大学図書館の図書館員が、館の被災状況や再開までの道のり、震災資料の収集などについて寄稿している。本を守り伝える人たちの記録である。どんな天変地異の後も、活字はその時々の人々の思いを伝え、心を癒してきた。

「本のある場所」が好きだ。書店、古本屋、学校図書室、公共図書館、ブックカフェ、ブックホテル。旅に出ると「本のある場所」を訪ねることも多い。本を開けばコロナ禍でも時空を超えて旅することができる。とはいえ、本を鞆に旅に出たい。一日も早く！

(東北生活文化大学短期大学部特任教授)



同窓会事業・会計・予算

令和2年度 庶務報告

- (1)総会開催 令和2年8月17日～令和2年8月21日 メール及び書面審議 (2)理事会開催 令和2年8月7日～令和2年8月13日メール及び書面審議
- (3)総会実行委員会設立 平成元年度,平成11年度,平成21年度卒業生担当
- (4)会報「山にありて」32号発行 2,000部発行。会員・会費未納者への送付は取止め、電子版にアクセスしていただく方法に変更。2,000部は、入学生、卒業生、宮城県内の学校・教育委員会等に発送予定。
- (5)学生自主活動支援 学生の自主活動支援金として、1回目7団体、2回目2団体1個人、合わせて9団体1個人に合計264,746円を支援。

令和2年度 会計報告

単位(円)

- (1)会計期間 令和2年4月1日から令和3年3月31日 (3)積立金 令和元年度末 0円+令和2年度末 4,967,213円= 4,967,213円
- (2)収支概況 収入総額 8,113,785 (4)財産状況(令和3年3月31日現在額) 現金・預金合計 4,967,213
 支出総額 3,146,572 現金 30,850
 差引残額 4,967,213 →積立金へ 預金 4,776,363 (ゆうちょ銀行 普通預金)
 160,000 (ゆうちょ銀行 振込用口座)

(5)補足

- *会費収入は、令和元年度 389名から令和2年度は 348名に減(328,460円減)。
- *平成29年度同窓会総会での決定に基づき、平成29年度9月より、同窓会業務の一部を宮城教育大学学生課に委託。
- *卒業記念品としてクリアファイルを作成し、令和3年3月の学位記授与式にて学部卒業生および大学院修了生に贈呈。

1. 収入の部

項目	令和2年度予算額	令和2年度決算額	比較増減額(△減)	備考
1. 前年度繰越金	5,330,427	5,330,427	0	
2. 会費	2,400,000	2,783,340	383,340	6名×8,000円-110円=47,340円/342名×8,000円=2,736,000円
3. 利子	30	18	△12	
4. 雑収入	0	0	0	
合計	7,730,457	8,113,785	383,328	

2. 支出の部

項目	令和2年度予算額	令和2年度決算額	比較増減額(△減)	備考
1. 事務費	45,000	3,752	△41,248	
(1) 事務費	10,000	0	△10,000	
(2) 通信費	30,000	3,752	△26,248	
(3) 人件費	0	0	0	
(4) 会議費	5,000	0	△5,000	
2. 事業費	2,890,000	2,642,820	△247,180	
(1) 総会費	0	0	0	
(2) 会報発行	500,000	202,840	△297,160	山にありて32号2,000部
(3) 会員情報管理費	1,300,000	1,396,834	96,834	データ管理、会報送付
(4) 学生活動援助	300,000	264,746	△35,254	
(5) 広報費	130,000	117,960	△12,040	新入生用入会案内、卒業記念品
(6) 事務局業務委託費	660,000	660,440	440	55,000×12ヶ月
3. 雑費	0	0	0	
4. 予備費	400,000	0	△400,000	
5. 寄付	500,000	500,000	0	
(1) 学生支援事業全般	500,000	500,000	0	新型コロナウイルス関連学生支援
6. 次年度繰越金	3,895,457	0	△3,895,457	
合計	3,835,000	3,146,572	△688,428	

3. 積立金の部

項目	令和2年度末	令和2年度末	比較増減額	備考
1. 積立金	0	4,967,213	4,967,213	
(1) 前年度までの積立	0	0	0	
(2) 当該年度積立	0	4,967,213	4,967,213	

令和3年度 事業計画

- (1)総会開催 令和3年8月2日～令和3年8月20日 (メール及び書面開催) (2)理事会開催 令和3年4月30日 宮城教育大学
- (3)総会実行委員会設立 平成元年度,平成11年度,平成21年度卒業生担当 (4)会報「山にありて」33号発行
- (5)学生自主活動支援

令和3年度 予算

単位(円)

- (1)会計期間 令和3年4月1日から令和4年3月31日
- (2)収支概況 収入総額 2,913,740(積立金から繰入513,722を含む)
 支出総額 2,913,740
 差引残額 0

*予備費を計上する目的

予算執行の基本方針は当該年度の収入の範囲で活動(支出)を計画します。但し、当該年度中に予想を超える事態が発生(例えば震災)した場合に備えて「予備費」と計上します。

【一般会計】

1. 収入の部

項目	令和2年度決算額	令和3年度予算額	比較増減額(△減)	備考
1. 前年度繰越金	5,330,427	0	△5,330,427	
2. 会費	2,783,340	2,400,000	△383,340	300名×8,000円
3. 利子	18	18	0	
4. 雑収入	0	513,722	513,722	積立金から繰入れ
合計	8,113,785	2,913,740	△5,200,045	

2. 支出の部

項目	令和2年度決算額	令和3年度予算額	比較増減額(△減)	備考
1. 事務費	3,752	32,300	28,548	
(1) 事務費	0	0	0	
(2) 通信費	3,752	31,000	27,248	
(3) 人件費	0	0	0	
(4) 会議費	0	1,300	1,300	理事会湯茶
2. 事業費	2,642,820	2,781,440	138,620	
(1) 総会費	0	0	0	メール審議予定
(2) 会報発行	202,840	203,000	160	山にありて33号2,000部
(3) 会員情報管理費	1,396,834	1,500,000	103,166	データ管理、会報発送
(4) 学生活動援助	264,746	300,000	35,254	
(5) 広報費	117,960	118,000	40	新入生用入会案内、卒業記念品
(6) 事務局業務委託費	660,440	660,440	0	55,000×12ヶ月
3. 雑費	0	0	0	
4. 予備費	0	100,000	100,000	
5. 寄付	500,000	0	△500,000	
(1) 学生支援事業全般	500,000	0	△500,000	新型コロナウイルス関連学生支援
6. 積立金	4,967,213	0	△4,967,213	
小計	8,113,785	2,913,740	△5,200,045	
欠損金	0	0	0	
合計	8,113,785	2,913,740	△5,200,045	

【特別会計】

3. 積立金の部

項目	令和2年度末	令和3年度末	比較増減額(△減)	備考
1. 積立金	4,967,213	4,453,491	△513,722	収入に513,722円繰入後

学生生活活動援助金 サークル紹介

Circle activities



同窓会費より、大学のサークルに支援金が贈られました。
今年度支援金を受け取った男子サッカー部、硬式野球部、
軟式野球部、吹奏楽部、ソフトテニス部、バドミントン部、
ラグビー部、女子ハンドボール部、びっさい、九つのサークルのうち、二つのサークルに活動を紹介いただきました。

硬式野球部の今とこれから



特別支援教育教員養成課程
発達障害教育コース三年
釜石 琉衣
〔硬式野球部主務〕

我々宮城教育大学硬式野球部は、リーグ戦でAクラス入り（三位以内）することを目標に活動しています。近年は新型コロナウイルスの影響によって思うように活動できないことが多くなっていますが、そのような状況の中で行われた昨春のリーグ戦は、近年勝ち星をあげることできていなかった学院大から勝利したり、個人タイトルを獲得したりすることができました

た。これは長い間チームが一丸となつて取り組んできたことや、各々の選手の意識の高さがもたらした結果だと言えるでしょう。秋のリーグ戦では、試合と教育実習の日程が重なつてしまつて上級生が多く、下級生を中心とするメンバーでリーグ戦に挑まざるを得なかったこともあり、〇勝十敗ということでも悔しい結果に終わりました。しかし、今までにないほど多くの下級生がリーグ戦の緊張感を体験することができました。現在はその悔しさを糧に、来シーズンの上位進出を目指し、必死に練習に取り組んでいます。今いる部員は、リーグ五位という結果しか経験していません。ここ数年で最高の結果を残せるように、支援していた

だき購入した道具を存分に活用して頑張っていきます。
今後とも、応援とご支援をよろしくお願いいたします。

男子サッカー部活動報告



中等教育教員養成課程
保健体育専攻三年
鈴木 上総
〔男子サッカー部主務〕

この場をお借りして体育会男子サッカー部の活動報告をさせていただきます。

サッカー部は「良い選手、良いチーム、良い指導者」というチーム目標のもと学生主体でチーム運営を行っています。具体的な活動内容としては、四月から十一月にかけて毎週末に開催される東北地区大学サッカーリーグを中心とする各種大会へ参加をしており、練習を含めて週五日活動しています。昨年度は新型コロナウイルスの影響のため、リーグの開始が十月に延期され、さらに課外活動の制限もあつて、思うように練習ができない時期がありました。しか

しながら、限られた時間内で成果を上げるために、自宅でのトレーニングの状況やチームのコンセプトをオンラインで確認し、柔軟な取り組みができたことは、今後教員となった際にも活きてくるものではないかと感じました。そういった点ではコロナ禍によつて良い経験ができたと思つています。

同窓会からの支援金では、練習時に使用するビブス等を購入する予定です。部員数も少ないのでご支援は非常に助かっております。心より感謝申し上げます。

来年度は大会で今年度よりも良い成績を残し、宮城教育大学の名を東北にとどろかせたいと思います。来年度以降も応援・ご支援の程よろしくお願いいたします。



今年度
定年退職教員

この春、お世話になった二名の先生方が定年を迎えられご退職されます。在学期間中の思い出や、宮城教育大の学生に対する思いを記していただきました。

地の学び野にありて



理科教育講座
教授
川村 寿郎

コロナ禍の中、地下鉄青葉山駅から黙々と歩いて大学に入る学生の列を追うと、老生として一言伝えたくなる。ここは知の学び舎であり、実は、国内随一の地(ぢ)の学び野(まなびや)でもあるのだと。今から四十年近く前、ふと目にしたTV中継で、大都市仙台の中心で化石が沢山採れることに感心した。奇しくも、程なく仙台に来

て、増田・青木両先生が拓き耕してきたこの青葉山北縁の学び野に入植(入職)した。以来、多くの学生と共に毎週野に出て、土と汗にまみれつつ、大地のつくりを教え、そして学び合った。

大学周辺は、地層・岩石・鉱物・化石、さらに断層・地すべりなどに絶好のジオ・フィールドだ。通常の授業中に歩いてそれらを見に行ける大学は、国内にはまずないだろう。大抵は課外で、バスや電車で遠地に行くのだ。さらに、持ち帰った試料を室内で処理し顕微鏡を使って調べ、他と比較しながら成因を考える。自給自足の素材で一貫して、正統的に地を科学す

る体験がここではできる。

同窓生の方々には、この学び野を連れ回したことを謝りたい。でも方が一、その体験が各位の分野で少しでも役立つと思ったら、望外の幸せである。

退職にあたって



国語教育講座
教授
小島 雪子

一九九二年の四月に着任し、この三月でちょうど三十年勤めました。退職にあたって、これまでを振り返りますと、卒業、修了され

た皆さんとともに過ごした日々がさまざま思い出されます。

来てすぐに、小専国語を担当しました。さまざまなピーク、専攻の学生が多数受講する大講義室での講義で、初めは古典文学に関心をもってもらえるだろうかと思いましたが、熱心に聞いていただき、中には講義終了後、授業の方法についてコメントをくれる学生もいました。授業の進め方に目を向けるなんて、教育大学に学ぶ学生たちならではのことで、さすがだと思ったものです。演習などでは、国語科資料室に遅くまで残り、本に埋もれて調べ物をする学生が多くおりました。卒業生が夜に現れ、後輩に資料の扱い方などを伝授していたとも聞いております。国語にかかわった皆さんにとっては思い出深い資料室が、一昨年の五号館の改修工事にともない、閉じざるを得なくなったことは残念でしたが、今後は、また別のかたちで学びの場がひらかれてゆくことを願っています。

よい学生たちにめぐまれて、楽しく過ごすことができましたことを心から感謝いたします。

事務局だより

昨年度に引き続き、二〇二一年度も新型コロナウイルスに振り回される一年でした。四月、新学期がスタートした頃は宮城県内の感染状況は比較的落ち着いていたので、本学講堂で一年ぶりとなる対面での入学式が行われました。六月の附属小学校での教育実習では、学生達が多くの学びを得ていました。しかし、八月以降は「デルタ株」の猛威が一気に押し寄せ、八月下旬からの附属小中学校での教育実習は延期、再延期となり、準備をしていた学生達にとっては、心が落ち着かない時期だったと思います。また少し平穏がもどったかと思ったら「オミクロン株」が出現し、これから入試や学位記授与式を迎えようとする中、またもやウイルスの脅威に右往左往させられています。

そのような一年間でしたので、今年度の同窓会総会も、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年度に引き続きメール審議という形で開催いたしました。ご多用の中ご審議いただきありがとうございます。また、同窓会報の配布方法を見直し、前号（Vol.32）からWeb配信方式にさせていただきます。皆さまには慣れない手間が増えたことでご不便をおかけいたしました。ご了承ください。

だ、学校や社会がデジタル化してきている昨今の状況を鑑みつつ、同窓会としてもこれからの情報管理、情報発信の方法については引き続き検討していきたいと思っております。ご理解ご協力頂きますようどうぞよろしくお願いいたします。

最後に、同窓会活動は皆様からの会費によって成り立っております。未納の皆様におかれましては、このことをご理解いただき、ご協力ください。末筆ながら、同窓生の皆様の日頃のご支援に感謝申し上げますとともに、皆様のご安全ご健康を心よりお祈り申し上げます。

同窓会費納入先
郵便振替
022402-34558
宮城教育大学同窓会
同窓会費：八、〇〇〇円（終身会費）



2021.4 理事会

恩師訃報

近藤 義忠先生（本学名誉教授、体育理論・体育史）
令和三年 七月九日

江馬 成也先生（本学名誉教授、教育社会学）
令和三年 十二月一日

が、ご逝去なされました。ここに謹んで哀悼の意を表します。



Webによる編集会議

編集後記

学校現場から泉図書館に異動し2年が経ちました。本と人をつなぐ仕事をする中で、自分が一番本を読んでいた大学時代のことが思い出されました。今、宮教大図書館はどうなっているのか。編集長の役得を活用させていただき、今回の特集を組むに至りました。久しぶりに足を踏み入れた図書館は、驚くほどの発展を遂げていました。しかし、取材を進めるにつれ、変わらない良さの方が多くあることに気付きました。まさに不易と流行を体現する図書館。青葉山の美しい景色を楽しみながら足を運んでみてはいかがでしょうか。

さて、昨今の事情を鑑み、編集会議はすべてWebで行われた今号。図書館の方々を始め、多くの皆様のご協力により無事に発行するに至りました。心より感謝申し上げます。前号よりWebでの閲覧となりましたゆえ、皆様の元へ届いているかいささか心配でもあります。ご感想などお寄せいただけると編集委員一同幸いに存じます。どうぞよろしく願いたします。

編集長 早坂 美幸（仙台市泉図書館勤務）

- 【編集委員】おすすめの1冊 ※数字は卒業年度
- 橋本 俊一 S48 『日本語の考古学』 今野真二 / 著
 - 末永 精悦 S53 『鳥人大系』 手塚治虫 / 著
 - 鈴木 朝二 S53 『アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か?』 カトリーン・マルサス / 著
 - 平間 正信 S62 『樹木たちの知られざる生活』 ペーター・ヴォールレーベン / 著
 - 加藤 良樹 H6 『山に暮らす 海に生きる』 結城登美雄 / 著
 - 野中 映里 H10 『蜜蜂と遠雷』 恩田陸 / 著
 - 近藤 ゆき H13 『舟を編む』 三浦しをん / 著
 - 早坂 美幸 H15 『きよしこ』 重松清 / 著
 - 千葉 廣 H24 『ことばが劈かれるとき』 竹内敏晴 / 著

同窓会誌がWebページに移行しています

第32号から同窓会誌はWebページの閲覧になりました。宮城教育大学Webページのメニューからご覧ください。

URL▶ <https://sites.google.com/staff.miyakyo-u.ac.jp/yamaniarite/home>

